

硫 黄 島

岡野武雄

— 彼島は 都を出て遙々と波路を凌いで行く
 処なり おぼろげにて船もかよわず
 島には人稀なり 自から人はあれど此土の
 人にも似ず 色黒うして牛の如し 身には頻
 に毛生つゝ 言詞をも聞知らず 賤が山田を
 かへさねば 米穀の類もなく 菌の桑をとら
 ざれば絹綿の類も無かりけり —

(平家物語)

1177年 鹿の谷の謀議が露われて 俊寛 康頼 成経の3人が流刑に処せられた薩摩瀧鬼界が島は この硫黄島のことである。ちなみに硫黄島と呼ばれる島はほかにもあり それは小笠原列島に属し 火山列島硫黄島と呼ばれている。九州南端 薩摩半島の南方海上に東西に並ぶ3つの島があり この硫黄島は東の竹島 西の黒島の間に位置し 東西5.5km 南北3km 面積1565ヘクタールの小島である。鹿児島県大島郡三島村は 上記の3島から構成されているが 奇妙なことに村役場は鹿児島市内にあり 3島には出張所しかない。村営の第2三幸丸(102トン)が4~5日に一度 3島と本土との連絡をとりもっている。鹿児島—硫黄島間は約8時間の航程である。現在の硫黄島は170世帯 660人(男334 女326)の人口である。農産物は甘藷 野菜で米穀の類は今日もない。さとうきびはほとんどれず 特産物としては椿油がある。

— 島のなかには高き山有り 鎮に火燃ゆ
 硫黄と云ふ物充満てり かるが故に硫黄が島
 とも名附たり 雷常に鳴上り 鳴下り 麓
 には雨しげし 一日片時 人の命の堪て有
 るべき様もなし —

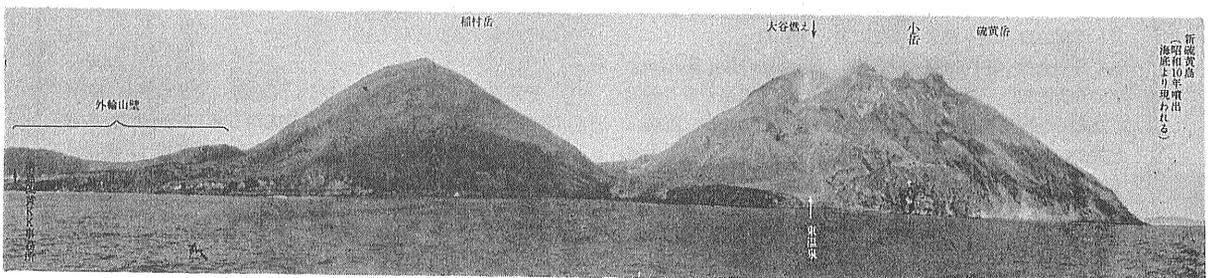
硫黄島の地質は 熔岩および火山抛出版物から構成されている。島の北西部の矢筈山(海拔350m)から 北方

平家城に延びる峯と 南々西 永良部崎に延びる 絶壁は鬼界カルデラの外輪山の一部を形成している。このカルデラの内に西から稲村岳(240m 一番古い中央火口丘 現在かん木に覆われている) 硫黄岳(703m 現在噴煙をあげている) 新硫黄島(昭和9—10年海底火山爆發で 海底300mの深さから出現した硫黄島東方2.5kmの新島)の3つの中央火口丘が存在する。

火山活動の他の現われである温泉は 東南海岸の東湯(強酸性泉 45°C位) 北部の坂本の湯(泉質不詳 低温)があるが このほか 東湯付近 島の北方平家城付近の海中から硫黄泉らしきものが噴出し 海水を黄色に染め 稲村岳南方の海中からは鉄泉が噴出し 海水を赤く染め 硫黄岳山頂から見下すと海の濃紺と対象して美しい。全島火山噴出版物という地質の関係から 良質の飲料水がなく 島民の用いる井戸水は塩分が強い。

— 此島には人の食物絶えて無き所なれば身の力の有し程は 山に上て硫黄と云う物を取り 九国より通ふ商人にあひ 物に換などせしかども日に副て弱行ば今は其態もせず—

12世紀の始め頃 俊寛僧都(記録に残る日本における最初の硫黄採掘者)も自ら採取したという硫黄は 今日南島硫黄株式会社によって大々的に採取事業が行なわれている。硫黄岳は典型的な円錐火山で 山頂部には 長径500mのクレーター(御鉢と呼ばれている)があり このクレーターの内外に大小無数の噴気孔が存在し盛んに噴煙を上げている。硫黄島の硫黄鉱床は 硫黄岳山頂部付近の硫気孔口から噴出する昇華硫黄の鉱床である。場所によっては噴気孔上に土砂をかぶせて この土砂に硫黄を昇華させて採取している。クレーター中の噴煙ははなはだ盛んなもので 噴煙中に入ると1m先の人物

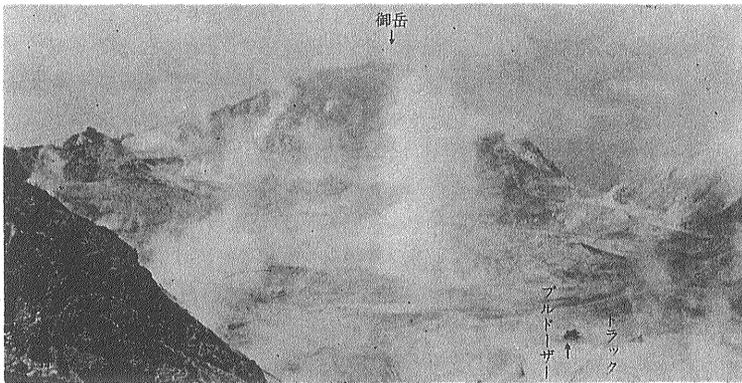


硫黄島の主要部(島の南方海上から中央火口丘を望む)

を見失うほどで 晴天にふりあおいで太陽を見ることができないこともある。 硫気孔の温度は 100°C前後のものが多いが 高温のものは 700°C以上に達するものがある このようなどころでは焰を上げて燃えている。

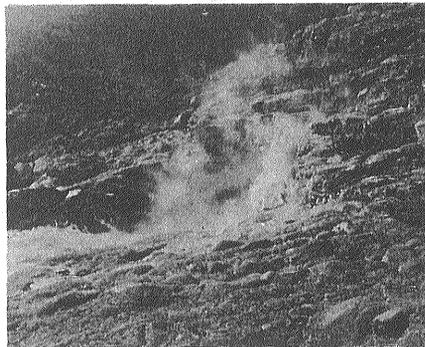
硫黄鉱石の採掘は御鉢中で ブルドーザーで鉱床を削り ローダーでトラックに積み込み 約1km はなれた粉砕場へ運び 索道で島唯一の港 長浜の専用積込場に送られる。 積込場では1000トンの専用硫黄輸送船朝夕丸にベルトコンベアで積込まれ 大分県津久見市にある硫黄製錬所に送られる。 製錬所では浮選鉱で分離された硫黄精鉱はさらに蒸気精練され精製硫黄となり 浮選の尾鉱 (SiO₂ 90%) はセメント用の珪石に利用されてい

る。 この硫黄島の硫黄採掘は わが国の昇華硫黄鉱床ではもっとも大規模に稼行され かつもっとも機械化されているものであることは特筆したい。 またこの硫黄島の硫黄採掘は地下資源の完全利用という面からも硫黄と珪石の両者を一物も余さず利用し またほとんど移出産物のない小島に一つの産業を与えている点 社会に大きな貢献をしているものである。 硫黄島は全島急崖に囲まれ 唯一カ所の砂浜地であり舟着場である長浜浦に全人口が集中している。 石垣に囲まれ 屋根に石を乗せた家は南国特有のもので みすぼらしいが 一昨年(1951)の1月に1本であった電話が3月には16本になり テレビも3台に普及している。 (筆者は鉱床部)

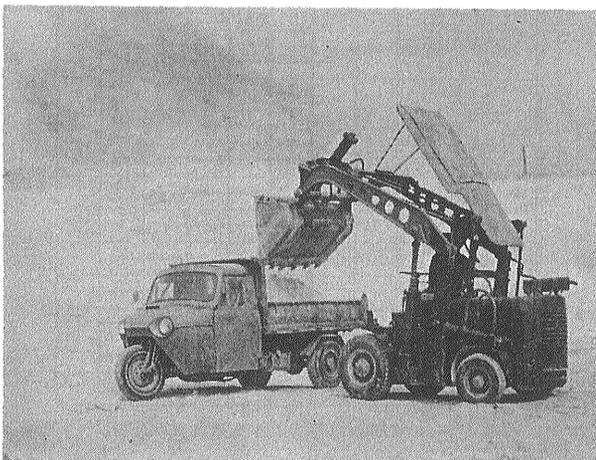
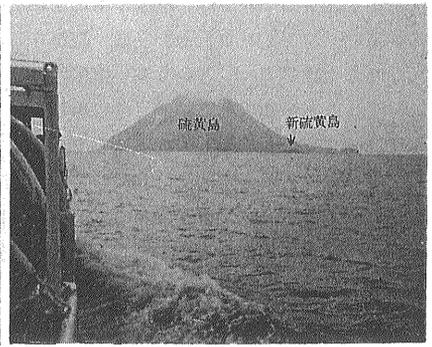


硫黄岳の火口
〔向う側は最高峯御岳(703m)〕
火口底内で ブルドーザーやトラックが硫黄を採掘し運搬している

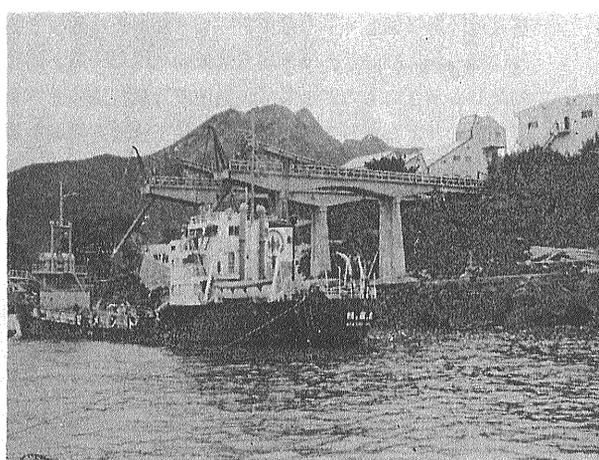
左は東温泉 (海岸の温泉で熱湯が海にそそぎ込んでいる)



右は東北方海上から硫黄島を望む 頂上の白煙は噴煙 手前の海上に黒く新硫黄島が見える



硫黄鉱石 (粉状) の積み込み作業 (硫黄岳火口底内)



鉱石の船積み作業 (精錬は大分県津久見で行なわれる)